

学術講演会のご案内

謹啓

時下、先生におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび下記のとおり学術講演会を開催させていただき運びとなりました。
ご多忙中誠に恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようご案内
申し上げます。

謹白

記

日時：平成 28 年 4 月 2 日（土）総会終了後より（16 時開始予定）

場所：長良川国際会議場 4 階 大会議室

岐阜市長良福光 2695-2 Ⅸ (058) 296-1200

総合司会

太田病院 薬剤科 吉岡 史郎 先生

座長 岐阜県病院薬剤師会 会長 遠藤 秀治 先生

■一般講演 16：00～16：30

『制吐薬適正使用ガイドラインの改訂点と運用例について』

木沢記念病院 薬剤部・通院治療センター 係長 平出 耕石 先生

■特別講演 16：40～17：40

『がん薬物療法の変遷』

～薬物動態研究者の視点から眺めてみると～

滋賀医科大学附属病院 薬剤部 教授 寺田 智祐 先生

単 位：日病薬生涯研修制度認定対象の研修会です。

日本薬剤師研修センター認定研修会 集合研修 1 単位（申請予定）

日病薬病院薬学認定薬剤師制度 V-2：1 単位（申請予定）

JPALS 研修会コード 21-2016-0001-101

※ ご提供、ご記帳頂いた施設名、ご芳名は医薬品および医薬・薬学に関する情報提供のため
に利用させていただくことがございます。ご了承賜りますようお願い申し上げます。

※ 講演会終了後、グループディスカッションを計画しております。

制吐薬適正使用ガイドラインの改訂点と運用例について

社会医療法人厚生会 木沢記念病院 薬剤部・通院治療センター

平出耕石

がん化学療法における制吐薬投与は、支持療法のなかでも重要な位置付けにある。2010年5月に日本癌治療学会より発刊された「制吐薬適正使用ガイドライン」は、制吐薬の使用方法について一定水準のエビデンスを示す国内初の指針として、各医療施設での制吐療法の標準化に大きく貢献した。

その後5年間で新たな制吐薬が薬価基準収載となり、また国内・外において制吐療法に関する研究も大きく進展し更なるエビデンスが集積されつつある。これを受け、昨年10月に本ガイドラインの改訂第2版が出版された。初版と比較し、内容に関しては新しい事柄が盛り込まれているのに留まらず、実臨床での様々な疑問に答えるより具体的かつ実用的なものとなった。特に、制吐に難渋しうる中等度催吐性リスク抗がん薬（カルボプラチン・イホスファミド・イリノテカン・メトトレキサート・オキサリプラチン）含有レジメンに関しては、その対応方法が詳述化された。一方で、ガイドラインに対する考えかたのひとつとして、記載事項に準じつつ各施設の状況に沿った内容に合わせることも必要であると言える。

今回の発表では、本改訂におけるポイントの概説と、薬剤費、服薬アドヒアランス、投与時血管障害および副腎皮質ホルモン薬投与不適症例への対応等も考慮に入れた当院での催吐リスク別制吐療法の実践例について報告させていただく。

がん薬物療法の変遷 ～薬物動態研究者の視点から眺めてみると～

滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部

寺田智祐

がん細胞の生物学的・免疫学的特性の理解に伴い、抗がん薬の開発は、殺細胞性抗がん薬、ホルモン療法薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬へと進化してきた。抗がん薬による副作用についても、そのメカニズムが解明されることによって、新しい支持療法薬が開発され、患者さんのQOL向上に大きく貢献してきた。

一般に、医師・医学研究者や製薬会社は、治療薬やレジメンの開発など、有効性に軸足をおいた研究・開発活動を行っており、薬剤師・薬学研究者は、抗がん薬の安全性を担保する研究に貢献しているケースが多い。

講演では、これまでの自分の薬物動態に関する研究活動を振り返りながら、がん薬物療法の変遷について考えてみたい。



略 歴:福井県生まれ、平成 6 年京都大学薬学部卒業、平成 11 年同大学院薬学研究科博士課程修了、日本学術振興会特別研究員を経て、平成 12 年京大病院薬剤部・助手。平成 14 年マサチューセッツ総合病院・研究員、平成 15 年京大病院薬剤部・助手、平成 20 年同副薬剤部長、平成 22 年滋賀医大病院薬剤部 教授・薬剤部長になり現在に至る。平成 24 年滋賀県病院薬剤師会・会長。

受賞歴:平成 12 年日本膜学会研究奨励賞、平成 18 年日本癌治療学会優秀ポスター賞、平成 19 年日本薬学会奨励賞、平成 22 年日本薬物動態学会奨励賞、平成 28 年日本薬学会佐藤記念国内賞